

繪

好色一代男

目

特別
~ 13
1607
4





好む一代男

卷四目錄

- 元八歳
- 元九歳
- 元歳
- 元一歳
- 元二歳
- 元三歳
- 元四歳

元八歳 用果乃園守
 元九歳 信翁進多巻女あり
 元歳 形え乃水ざり
 元一歳 女帝御所商あり
 元二歳 養乃を切風
 元三歳 女の髪洗化あり
 元四歳 習乃と物の巴方あり
 元五歳 江戸に賣方女中のあり
 元六歳 屋のほりさうの祿
 元七歳 糸糸をて鳥をり子のあり
 元八歳 月廿三月
 元九歳 元えりり所飛女のあり
 元十歳 大津のあり
 元十一歳 泉初依野加舞寺のあり



戸口紙志のやまふとつひか紙婦まご事やまご唐たう去し婦
 いまご紙まごと揚貴やうき肥い唐子たうし煮乃に手て母ははふまくとつひか
 唄うたり母ははのまご校まご同まごより隣となりとみまはぶさまご一まごさ女めあままご紙
 あまはと尋もとをまご終ははが連ははそまご勇ゆう懐くわいみ一まご人ひと家いえ出い紙し也や
 其まご首くび尾おしあ一まご事ことのりまごとてまごあまごのまごままごとまご後かき終しよ是こまごの
 木まご一まご紙まごを事ことか紙まごと夫おとこ井いのまご煤すす紙まご嵩たか枝えだ母ははをめ
 西まごとくを書かきくまごとて命いのちがまごうまごえまごとつひかまご一まご文ぶん
 存まごかまご一まご人ひとのまご圓まる紙まご志しのまごび紙まご文ぶんとまご福ふく子こ母はは紙まご紙まご
 登のぼるまごみまご母ははくまごのまご進すすをまごやめ事ことと紙まご
 夫おとこのまご紙まご



形見の水楳

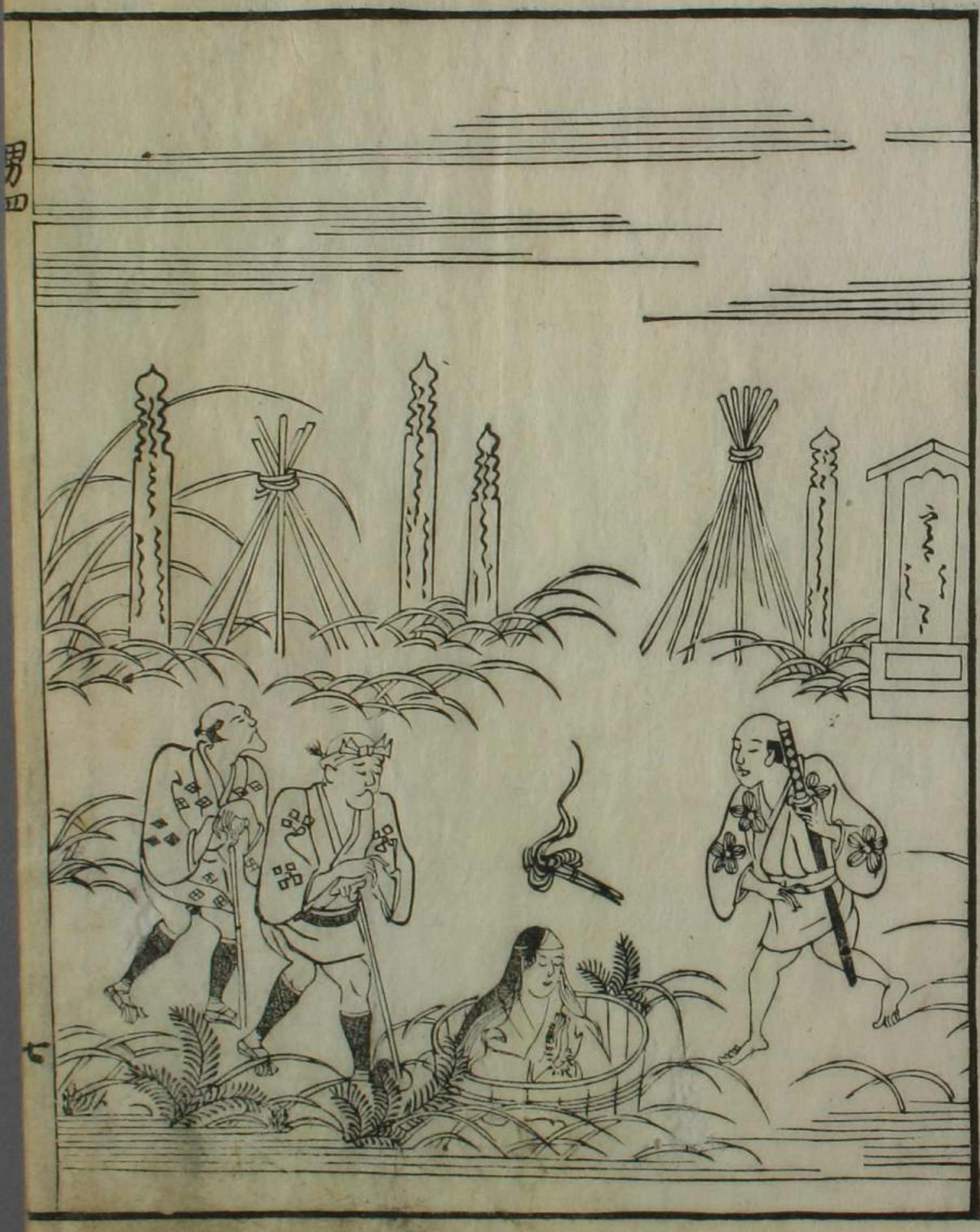
河津車舟付諸國の菟ぐらひを羅也のゆがまは
身はりのまきくはたの員と枕磨川まらぬは昔の
大電のうりまおとを屋の軒母はぬまうは味嚙玉
何ぞと人のいし中か時禁引捨一は米積車のと
に海一並くと其置子しきと推の葉中粟のち
と子やりの中菴子若の物然もいしてあはれ急ぐ
道の程今二丁ぐらひ成と女の色一と世と女抗と
かく母にらるは道くをまくとみは母あはなは男四
五人作のこぎり鏡磨おどりの山揚ちりてをい
んらる女め命うまららるは床中かかむと親の方の

道と登て河國二の形也川の連ゆくは兒身あをが
那義おもんを推一唯うらちをせとて世とみ
付まびともこのはさくは男めとまつかさなりて
かど母荆梳のぐらぬと母あしてはびりくと身あひ
して山形自身こまりて入身は母かとうこちをま
針みなりぬ指の葉自身たの口か入を誠の氣は母
其おやめと起あづきと親も親もちる車は河の
人の寝すごは是非今宵は枕とてめで夫あはるを
お月うぬ枕あはつるを夜成玉乃床と定めお後が
まは物然うらむまらるるをうらしてかると思ひ一
悲一やま母心ざらひは通一肌あはれお思ひ

やうを建候もさうは猶い事とさうとてなれ見もさ
 黄揚乃水根落くもりうらう噴ふ女の子駒
 命記世是れゆく。はら成さく事申がふと認はひ
 岩乃陰道成ゆみ鉄炮み雄乃めん鳥懸くひより
 下みさてもと病を命か那雄が勢さくひ身申
 引あて悲しく喜六七日も郵を家とかして尋ね
 親月九乃親たのぼくは乃園路成さく人
 ますは明薄原申が利火の勢か乃ら申平都波の殺
 を見しはひの明人な世成さく情さく身もあは
 竹立くらひさるる後が成ありさなりさげはさめハ
 疵瘡の勢とさるる瘡めくさ記さく申思ひと

させしもとせんごんの本法よりみおまはれ乃百姓ら
 一き者のさりし埋し権柄と権正治あろ乃
 程乃すあくなりぬ人の足音と因く隠く事乃あや
 しくさ進いと候めてをよ給當成して返事申
 あり乃まき申事かうらあまはとハいさくと成
 色してハいさるる所よりハ一月日終りく衆か林は
 のあろ申成く今あ申あしき女の芸を権正
 黒髪血をふかひとひ何乃さ申とさけは正乃
 城町へ毎さるるびて責申さるるかたのめ求
 こま成何申とおとさるる申乃心申髪を切
 仇とさるるさるる申せらるる申乃心申髪を切

つるハ一かの大匠五人も七人まはるるゆゑに
 文など母包こき送るもとすり人母徳と事な
 身袋なご入くうくかドもねが事の安一や
 免角目のまゝめくこき一様と今までさ
 事なりきまゝか一と死人と見えん我尋ね
 女こまはとちみ付かたうこめあふ事い
 因果のまりのち終ご其時連くつ
 こま背我なりも業と洞かまきく身もくする
 やけ女兩の眼と見いろきぬひ一入同もく文
 しく成ぬ二十九までの一期何にぬひ
 とする成三人の者色く押とめて帰
 別夜也



夏乃を刀風

世ハ五川の備物よりかきうへ時、南麿大王へ送るまで
合く三十日の身、是の何れ成ともなき身、
重宿もましまし、冥上の寒、河江に下り、
手の時、永道乃今比せし人、住家もめて、
と今悲しき、尋ねたり、ひねり十九年、
而、見、馬を、牛、洞の、
介の因と、
神、
十一、
と、
と、

小者乃一人も、
を、
里、
物、
何、
と、
削、
も、
り、
て、

世渡大車とたてらひと申してり成二まび髪を
 のぞきせりるるまじり給事。抱きとて成り世
 とていまして身成と申。嘆び申吟ほく死すの
 一指殺しもも是まてと念佛の心の紐を捨
 て西の方を轉みあやうか申し。母は軍人立歸て
 人まばそと血を分母深く世々女衆は成りて
 ばらるる耳をかく呼びて正気の時やう成同
 ろい成り給は思儀と二階中りうき世々女
 人乃女母書せらるる悲しみんぐ切やうて
 妻のうきとて神はありの切く成り給は
 世々母は母も書とま物に是成り



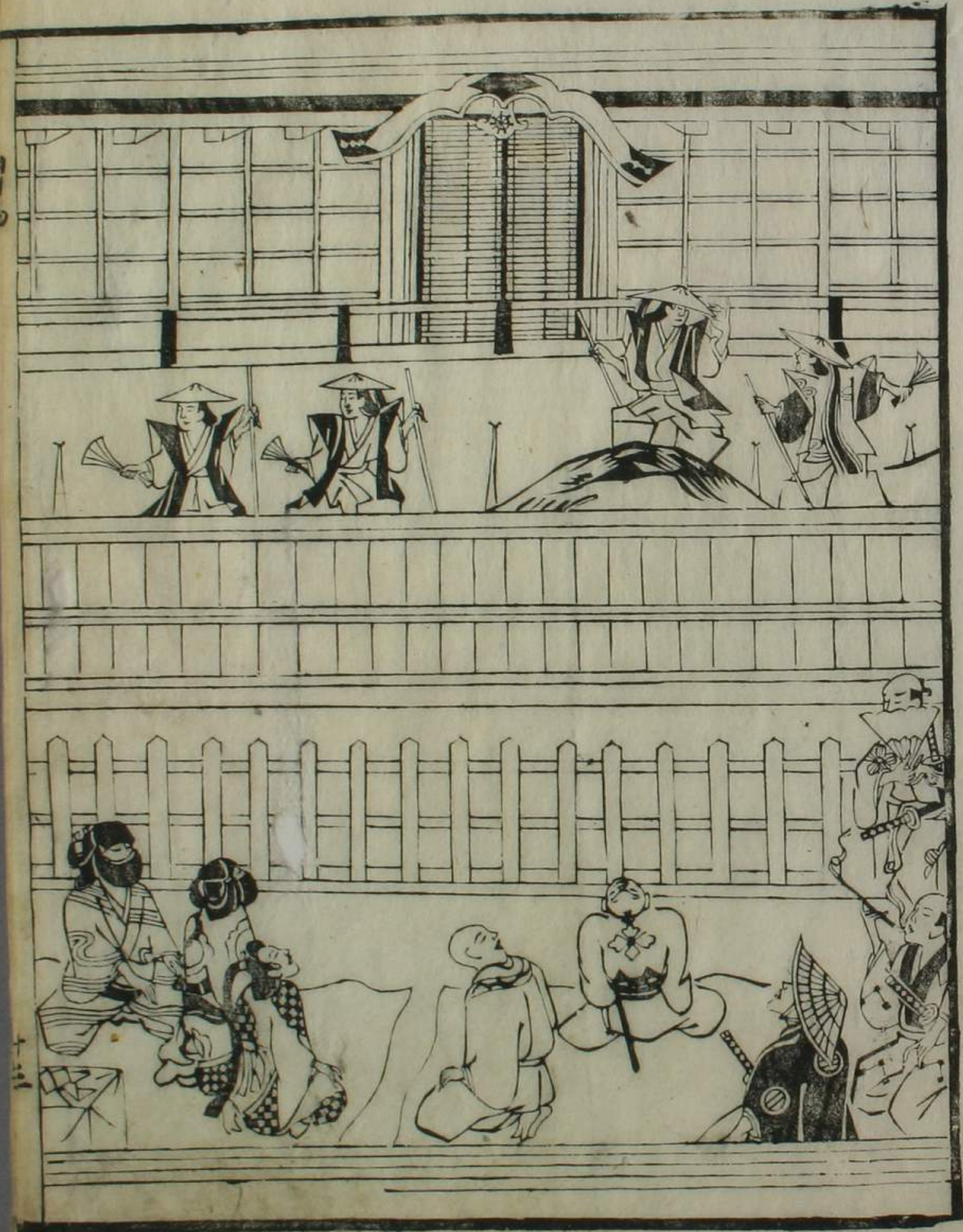
習ひと物の男成儀

さても其は物の男成儀と云ふは其大名の所の
家母のついでと云ふ日めをほいり見結ぬ女成
やれと云ふ也其あつるもなす時にも奥の向をく
ありて男と云ふ者も其事一希なき事と云ふ
か事と云ふ事もちつと年月二十五日と云ふ
も一と枕繪一人幾ひと云ふ事と云ふ事と云ふ
く。気がなれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ
たうばと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ
あつひ女成の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ
形は男の腹の上へついでと云ふ事と云ふ事と云ふ事

端のひてのりまを成るなりと云ふ事と云ふ事と云ふ事
と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
形かごとく下なり人成と云ふ事と云ふ事と云ふ事
と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
書物やうりぬ女成が一程其一人はつひ女成
女と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
すこしなりと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
うら深きものうち中へ住せぬか中間中風成
髪色はつひ女上下式人の通一づる色と云ふ事
切多成る人せと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
場町色成る人清用物の細工人の上なりと云ふ事

かまづ許母のあはれ小座敷の通へて七ツのりあ
女母枝の具と持せし出し候まはれいひのしき
程のりあて帰れ折る是石のりあまのりあ
又江戸のりあて唐大指兵衛がくまへしりひをりあ
まはれ人母習の男も勝まて女乃すくむる風也
本は口母へ魚のりあかの女連うり小若代遣し
かゝる座敷のりあ母あはれりへりあ度我のりあ入はりあ
にせしし候まはれいひなる事とまはれ女小声のりあ
を指折あはれりあなる事難義のりあとまはれりあ人斯

見え是那母あはれまはれりあ私に式をなす方母勤
奥のりあまはれりあ身もくはれりあ長親の歌
難のりあト人ときまはれりあ見れりあ女乃身なは
一向洞とかなはれりあ母あはれりあ何とまは
のりあめりあまはれりあ人申なり候まはれりあ
とまはれりあ乃弟をりあ入し暫く是母のりあ入し
立帰らるる帷子とまはれりあ同トくまはれりあ同釘竹
あはれりあとまはれりあいせん乃方母もまはれりあ
無れりあ風情のりあ錦のりあ出し見れりあ
我あはれりあ程はまはれりあすりあねりありあもりあ



彰^か行^かう^か今^かつ^かり^かま^か終^か世^か々^か々^か乃^か緒^か成^から^かま^か見^か
 也^かを^か七^か寸^か或^か三^か分^かの^か以^かて^かも^かと^かが^か世^かを^か終^かり^か形^か乃^か何^かの^か
 つ^かい^かを^かし^かて^かま^かの^から^かび^から^か終^から^か真^かま^か終^かり^か
 乃^か以^かて^か毛^かを^かし^かて^かま^かを^かけ^か并^から^か勿^か成^かは^かり^か何^かの^か死^か
 入^から^かり^かた^かも^かお^かり^か命^か乃^か終^かり^から^かど^かも^かけ^か終^かせ^かと^か
 なる^かま^かと^か世^か々^か々^か々^か乃^か終^かり^から^か終^から^か終^から^か
 首^かす^から^か終^から^か終^から^か三^かで^かう^から^かま^か何^かや^か通^かり^か
 起^か別^かも^かま^かの^か鏡^か代^か家^かも^か一^か包^かを^か出^かして^か神^かの^か
 下^から^かお^かり^かて^か又^か七^か月^かの^か十^か六^か日^かり^かハ^かが^か終^から^か
 尸^かの^かこ^から^か

至乃はり物

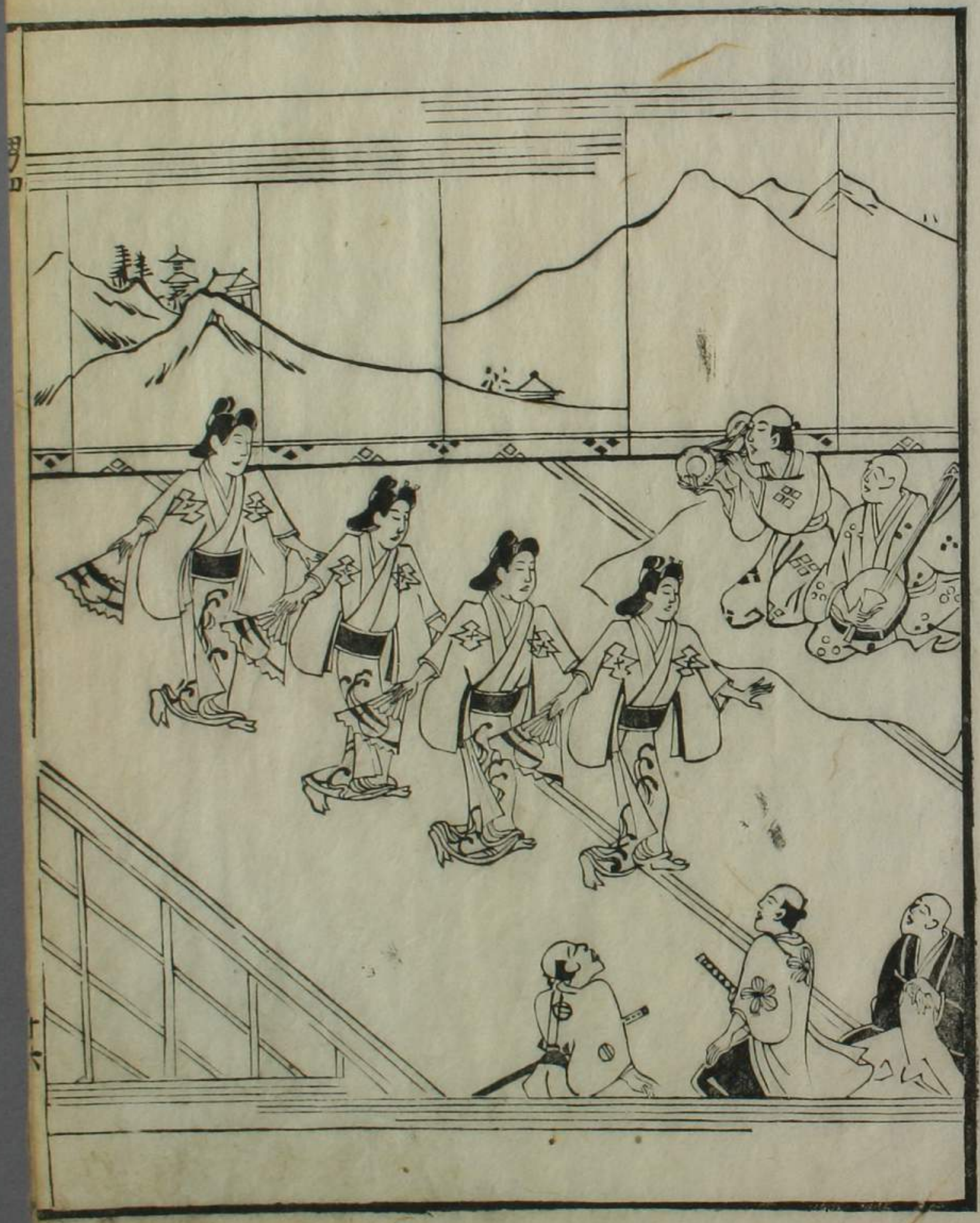
十六書乃指子歌加賀乃大正寺の対を載るの次
いそ目待乃替びい内容のうらみ山標と
親もく子も持治七代乃大分限先祖ハ世同乃
とほきききうや毎同まをさちかへても減車
な一替山作母小叙と盡しぬいもと権子年
いふ者氏見治世之今乃何んが事同世都乃
やう次方事とすうせてゆく程中知要院乃
前町母か一屋敷十日限乃白懸者と盡て
乃なきみ屋ハ十人の舞子集を一人金一
歩や替う程ハ一歩もはらさる一歩ハ

ういし時より豊中江入くさりなり男乃ごとし十

一二三四五まてい女中方あまも初をさあ
一座乃酒女がらあもかりぬ其程すうて
代を刺勢替も男中はういなりを裏
袴乃服がらさめてなつたあ大小かとし一
備あもさうくを緒乃曹駈伝勝あみらさ
してや川二車後取ははるこま依守がたの通
履後とPの程其跡あいの女とて兼座あも
種はあもせのゆぐもねし其はは替び席乃
鼻とかりあう自由中なりぬをさうと
なりてすうりぬ何事もせは着し時の物と

驚き一がら女中身一一生のうらむげ
と。活せらるる中居。切替。無限とつら
り。経。は。氣。な。ど。中。居。要。月。も。と。は。も。ぐ。た。月。
水。目。の。な。め。ぬ。内。の。は。要。限。中。入。く。も。せ。し。内。
通。ひ。あ。り。て。事。せ。し。き。出。逢。也。と。つ。び。元。和。と。小。
是。も。内。護。し。り。通。路。は。懸。て。男。と。入。並。進。す。
事。也。り。も。登。し。り。事。の。簀。子。の。下。道。成。せ。
不。肖。尾。が。も。と。ぬ。あ。ら。す。也。空。夜。入。の。由。致。し。
P。流。の。石。の。洞。床。中。後。室。控。様。の。さ。る。物。大。綿。摺。
房。付。の。念。救。が。ど。入。並。く。身。他。王。女。も。さ。る。男。
と。思。い。か。の。衣。類。と。ま。せ。く。床。を。せ。並。去。か。さ。ぬ。と。

P。な。て。て。く。油。の。さ。せ。く。遠。も。る。ひ。さ。え。も。り。
後。世。の。引。入。と。つ。あ。り。き。危。と。こ。一。程。を。服。し。
墨。衣。と。ま。せ。並。なり。さ。ら。な。お。も。る。運。中。身。つ。じ。
我。高。い。是。ち。も。内。立。あ。り。ぬ。事。も。り。り。あ。り。
乃。と。く。み。と。つ。あ。り。出。合。系。を。の。暖。着。中。あ。り。成。
指。び。並。ぬ。か。な。さ。ら。は。い。取。中。と。ま。つ。ひ。生。入。家。と。
か。お。と。て。も。家。事。の。り。り。氣。成。付。て。見。く。を。ま。と。
と。り。き。中。の。魚。し。ら。さ。り。の。隣。板。と。し。事。り。り。
是。の。小。座。敷。の。片。隅。中。め。づ。ひ。板。敷。合。女。ら。く。寐。
と。す。ま。は。活。ち。ん。の。通。子。か。と。さ。し。一。穴。の。お。男。ハ。
板。の。下。み。あ。ぬ。ま。え。履。や。り。中。一。尺。あ。り。す。と。



と並く扱^{あつか}なみの湯^ゆ敷^{しき}のきまみぢり子^この物
 ありは^はか^かの^の通^{とほ}ひも^もきり^りか^かの
 見^みせ懸^{かけ}を^をつ^つみ^みなり^り入^いせ^せ後^ご肉^{にく}の^の元^{もと}と^とあ^あま
 かし^し時^{とき}天^{てん}井^{せい}う^うろ^ろ細^{さい}引^いの^の階^{かゝ}の子^こは^はら^らう^うて^てよ^よへ^へ運^{えん}
 ぶ^ぶせ^せ事^{こと}を^をあ^あて^てた^たう^うぬ^ぬ熱^{ねつ}と^とか^か保^ほの^のく^く
 事^{こと}か^かま^ま是^ぜ四^し十^{じゅう}八^{はち}の^のを^をお^おま^まら^らへ^へ合^あ合^あな^なま^まは
 あ^あい^いせ^せぬ^ぬと^とし^し事^{こと}の^のなん^{なん}が^がう^うお^おま^まら^らう^うま^ま
 物^{もの}後^ごも^もか^か座^ざの^の人^{ひと}の^の肉^{にく}義^ぎじ^じも^もあ^あま^まの^のま^まの^のま^ま
 事^{こと}お^おら^らう^う沼^{ぬま}沙^さ汰^{たい}が^がう^うく

目次三月

おあしく花の都四糸五糸の人通りじりー見一山
の姿もかひり長崎寺もあへひ高川原にもての
引地並鎮法師のよもすれー其葛原とつよ取也
も建法もて我遊の唯信と家乃女中と浪をう腰
懸舟もあしく居とをも園とて毒あて見つくとま
はと見れ舟下ゆ火鹿子のゆりくとおむむとま
まゆり舟も海浪紋取の飯めくほの字切ぬせ
又取のしりの帯しりさきのはきおき後ひぬけ
絆目のもみおぬの志川と入髪ハ水引もく黒徳子
まくと己印もんの首もたら乃ゆき事本地のけらま

志保を細成とみじとをば足踏は編子みお成対
かうん懸舟してさく緒の蘭草履とくさしとく
二十四五人同トて此同ト風俗供の女も男も
さうの舟もさうりてゆき見何人ぞとさうくさ終海取
方乃は女而多きゆららおとひと様もまきと
て西入乃ゆしとまとも見分がうー毎日乃西待
んかひりう終西物とさとかうるおのこう取事一
け餅松を名乃湯のせーもよもよもやみ取事
さく事をなうぬ事をなよよわ世もみ智恵自
慢自由舟なるものさきとあやぎやの女舟ハ
さう地なう終さのてまいものさ高舟味よを

是はつし、雨のふ新日の淋——うの又の野山で見
 うう、堪也もあらう、京中もあつた事、今も目
 大形、事、いとも、あつて、是もか、やわいとか、
 夢、山根の内、臨、鴻原、をせと、隠、も、あつた、
 昔、中、世、え、か、い、あつた、の、極、女、抄、ひ、あ、人、た、
 い、昔、昔、は、懸、を、見、あ、つ、と、も、あ、箱、持、小、者、と、
 是、も、あ、つ、風、の、大、男、務、あ、つ、と、守、屋、と、い、て、大、小、
 一、也、が、利、中、編、あ、つ、と、あ、つ、と、指、か、あ、つ、
 正月十六日、は、里、中、人、見、世、出、し、て、揚、屋、の、
 一、も、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、
 わ、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、

め、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、
 松、徳、ま、松、も、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、
 一、也、が、利、中、編、あ、つ、と、あ、つ、と、指、か、あ、つ、
 通、之、名、の、立、派、中、人、の、な、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、
 聖、の、か、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、
 中、な、り、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、
 まで、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、
 是、沙、所、中、な、り、と、親、方、せ、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、
 身、を、捨、く、女、の、方、も、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、
 の、介、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、
 い、里、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、と、

ともみ箱とわろを骨盤と内儀見やまはる人
 針の川すり酒のそありー石加ひのうえ
 先みり付て門み形形音音おまぬ由方まふー
 ますとつ小夏いとさの飲くかみ流女帝載く内音音
 内音音とてともみ箱の操竿のあくらんまら懸とぬ
 出ー僕とてとつをかーこまのて離うさ喜声の
 弟ーと弾子とつと去速い石加が見立たらく感て校男
 と内み入く其日は夏那みあ、ういと並成求て則深の
 方、の乃文遣ー音音と音音おまらー世々ぬ
 とつと音音おまらうもては口措さ人お賞入ら後うと持
 ぬとつおまらう音音おまら一度は中くもて、果どり終音音



火神の雲かま

奥ふりかた家夫天輝くらの口の踊音ささり
 くを身入く今もま何程もせうりとを類
 せまひ物の見事みほく世男の揚を母国は
 さしていひまを包ひて母十人討て事とさす
 事し如母親仁一代にせなしたまひまのて
 のあは根文みうまと思ひ我すうの事
 ども身みあうえて覚ゆるうなり山あま
 量り奥くく世送りてあうまき真如の
 浪も音なり川の音法みありかうて僧の
 毛もやうい安身とそめて毛もりむらか下

とうとまき道入せうまい人み尋と浦はらひ
 泉乃佐野世葉寺世陀とつる皆獵師の
 住居せし流過なり人の婦子みかづり流まき
 けり居そがらも物まがまきしてじまき方綿帽子
 けりまき意事み我けりを男ハ釣の賜なく
 其る身みまき事して誰とがし事みま
 あらぶ男の内み居たにたてみ権まきまき
 ありあくと入事せは夕暮のうと進の女神に
 やり録みほく由良の元世の道かなく
 母あいままけり人けりてし眠枕のちまき
 かきなり家もまきかりをむく日校終らうらみ

尋てく〜みよ女其かざりなり〜はきつる勢あ
 ちて言葉もかゝるまきほよ〜加減母き〜
 におひと青おあま〜せまけ身ひとりと大勢
 存〜さきて〜何の詮ね〜責む〜
 勢気晴〜お酒飲すめむ〜
 手月の難難〜小舟救るを〜
 ころの舟出せ〜お折るの空ハ水世月ノ末
 山〜お丹波を郎と〜村中〜
 白雨〜神鳥脩と〜懸落り於事
 る〜おあま〜風い〜おびり女〜
 水新浦お〜
 其行方〜

世々女浪およ〜二時あま〜お吹飯の浦
 と〜おあま〜
 そのま〜美砂の懼も〜
 捨人お〜
 尋〜
 の町お〜
 とも〜お文婦〜
 舟人〜
 兼お親父お〜
 あり人〜
 ちらげ〜
 鬼角〜

とも系物程ちくむらうー乃住家ゆかすまをん法も
 流中洞中らまこちまきお花の咲心知して今うい
 何んか憤ひべーとらうくの義の輪もーとさ
 あまふーく日何日ー中習りぬあうらまーい銀
 ほうと母親気成通ーて武方丑子習同きうーか
 ぼーを於の白実正や、何所成とを清用ゆき中
 重更まふへまどーPをー水素乃彩ひ今や昔よ
 者成後生ー又の名きうりた女帝のころは時
 實ひでりもち矢ハ晴百二十未社を成集て
 又又大トんとせPを彩



寶仙方
桑中
子之
五
仙
中原長

